

奇妙な果実 —— 『局きよくの報道ほうみち』 解題に代えて

村山徹郎

南部の樹木／奇妙な果実と結んでいる／その葉や根に血を垂らして／黒い物体 南部
の風に揺れながら／奇妙な果実がポプラの木からぶら下がっている／雄々しい南部の田
園風景・・・ 〈奇妙な果実 作詞ルイス・アレン〉

不世出のジャズシンガー、ビリー・ホリデイが地下深くから大地を揺さぶる様にして
低く抑え気味に歌うこの有名な楽曲は、まるで魂の奥底に沈殿する悲しみを一つ一つ掬
い取る如く訴えて、聴く者を誰しも戦慄させずにはおかない。

この「奇妙な果実」と言うのは、実はリンチの末、ポプラの木に吊るされた黒人の死
体を指しているのであり、恰もその死体が果実の様に（但し奇妙な姿をした果実として）
木からぶら下がる姿を捉えて、人種差別に対する告発の歌として発表されたものである。
そうして、その圧倒的な歌唱表現力の故に、この様にシリアスな曲でありながら、当時
（1939年）としては異例のヒットを飛ばしたのであった。

彼女ビリー・ホリデイは、一九一五年メリーランド州ボルティモアに生まれ、一九五
九年ニューヨークで亡くなる44年の生涯を、畏敬の対象である不世出のジャズシンガ
ーの顔を持つ反面、それとは裏腹に、少女時代にレイプを受け、窮状に追い詰められ生
きるに仕方なく身を落とした売春で投獄の憂き身に会い、更に麻薬容疑で逮捕されるな
ど、その人生は悲惨極まるものでもあった。

これは、〈黒人〉であり 〈女性〉であり 〈貧困〉であると言う【差別】の三重奏に見舞
われたが為の痛苦である。

同じく、〈非日本人* (1)〉であり 〈女性〉であり 〈貧困〉であると言う【差別】の三重奏に
見舞われたが為の痛苦を味わった方々がいる。元日本軍慰安婦と呼ばれる方々である。

そうして、平和とは漠然的な倫理概念ではなく、「『個々人それぞれの、人間の尊厳、
つまり、自由と基本的人権が保証されている状況・状態・環境』を具体的に表す」もので
ある、と教えてくれた彼女たちをセカンドレイプに導いた番組がある。改竄された「問わ
れる戦時性暴力」である。正しくこの番組こそ奇妙な果実ではないだろうか。

グローバルスタンダードに基づき周到に準備され、国際法の専門家などその世界の重鎮
を揃えた『女性国際戦犯法廷（以下、法廷）』を克明に追って、決して時効が許されない『人
道に対する罪』への裁断を主調とすると謳われていたこの番組は、ありったけの勇気を振

り絞り被害証言に臨んだ法廷の主役とも言える元日本軍慰安婦、また当時加害の側にあったこれも覚悟ある証言をした元日本軍兵士、その両者に当てられたスポットライトによってのみならず、戦争指導者を【有罪】と結審した判決が表現されていると言うことで、放送前から周囲には破格の扱いで注目されていた。

だが、それが骨抜きにされ切り刻まれたがたになった状態で、つまり注目すべき視点は殆ど改竄の惨事にあって放送されたのであった。

その背景や遠因、また深層に関しては、当該書籍『番組はなぜ改ざんされたのか「NHK ETV 事件」の深層』の各論考に詳しく述べられていて、ここでは触れない。唯言っておこう、今私たちは、奇妙な果実に歌われたおぞましい光景の中に生きている。

さて、人間とは、思考を徹して心^{こゝろ}を発動する動物である、と目している。思考停止状態では、心とされるものは、衆を頼んで条件反射的に浮かんできたお仕着せの言動に託^{かこ}ち易いからだ。

しかし、思考の継続は時に苦しいものである。そこで大切なのはユーモアである。何故ならユーモアは、思考の深呼吸、或いはマッサージであるからだ。これで緊張し強張ったが為に苦しくなった思考は癒される。また、ユーモアとは、無論、イロニーや揶揄やその場凌ぎのおふざけと言った、アパシーないし意趣晴らし的フリッパンシーなものではなく、エスプリ、ウィット、そして機知を指す。

この『局の報道』は、実はユーモアによってそんなおぞましい光景と切り結ぶ、アンビバレンスの法則によって飛び出してきたもう一方の奇妙な果実なのである。

更に、これは原本『おくのほそ道』とはその内容や趣に関し縁もゆかりもなく、唯々その文章を駄洒落で置き換えた、所謂狂文^{ハロデー}である。

作者松尾破証氏は謎の人物である。だが戯作者である以上その素性を隠すことは当然の振る舞いであり、別にこれは然したる問題ではない。

彼の抱負とする旨は、仄聞するところによると、太田蜀山人や山東京伝など、江戸天明調を鮮明色濃く彩った文芸界の巨人達に倣うばかりではなく、恰も自らその時代へと遡る風にして、彼ら先達に負けず劣らぬ作物を誕生させ様と心血を注いだこと、にあるそうである。

唯、原本総てに亘って忠実な置き換えを施した訳ではない。作者との仲を取り持ち、校注に勤しんで頂いた狂歌師藤原^{つとむ}って云うかあゝ氏の説明によると、これは、——①異本に関し古くは隠岐本『新古今和歌集』に先例が見られる通り、編集の工夫の著しさが

認められることから同様にして。また、②近くは『問われる戦時性暴力』に如実な様に、編集権の乱用が上げられること。はたまた、③他の訳からか。——とまれいずれかの理由があつて途中削られた段が多々認められ、原本とは大幅な異同が露わとなっている、とのことである。

尚、以下に、この狂文をより楽しく味わって頂く為の提案を、幾つか披露することを許されたい。

- 一、『おくのほそ道』を参照されること
- 一、改竄された番組「問われる戦時性暴力」を視聴すること
- 一、当該書籍『番組はなぜ改ざんされたのか』「NHK ETV 事件」の深層』に充分目を通すこと
- 一、何度も繰り返し読まれること
- 一、パンクロックがパンクロックとして堂々存在意義があつた時代、レコードにはこぞって“PLAY LOUD”と記されていたことに倣って、

「声を振り絞って朗読を！」・・・“READ ALOUD”

注

* (一) その多くは非日本人であつたものの、一部日本人も存在していた

(了)